

EX (絶滅)

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

スジゲンゴロウ

Prodaticus satoi Wewalka, 1975

カテゴリー判定基準：③

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
—	CR+EN	CR+EN

かつては普通種であったが、各地で姿を消した。1970年代を最後に確実な記録がないため、今回の改訂で絶滅とされた。高度経済成長期の水辺の開発による消失、農薬使用や水質汚染、圃場整備が水生生物に及ぼす影響の大きさが検証されるべきである。残存する東南アジアでは二度とこのような絶滅を繰り返すべきでない。

Prodaticus satoi used to be a species, but has disappeared from all habitats of Japan. As there is no certain record of its existence after the 1970s, it is categorized as extinct in this RDB revision. We must examine the degree to which wetland disappearance by development, intensive use of pesticides, water pollution and rearrangement of rice paddies threatened the existence of aquatic animals during the rapid economic growth of Japan. In Southeast Asia where *P. satoi* still survives, the mistakes that led to these extinctions in Japan must be avoided.

基礎情報

■**形態** 体長12~14.5mm。体型は長卵形で背面はやや隆起し光沢がある。背面はほぼ黒色で、頭部前半、前胸背の両側は黄色。上翅両側の黄色2縦条は中央後方で合流する。腹面、脚は赤褐色。オキナワスジゲンゴロウは、上翅両側の2縦条が中央前方で合一する。

■**分布域** 本州（関東以西）、四国、九州、対馬、屋久島、大隅諸島、トカラ列島中之島。国外では朝鮮、中国、台湾、フィリピン、ボルネオ、ミャンマー、ブータン、ネパール、インド、スリランカ。

■**生息環境** 平地を主とし丘陵にかけての、比較的浅く水草の多い池沼、湿地、水田、休耕田。

■**生活史** 幼虫、成虫ともに肉食で、水中で生活する。終齢幼虫は夏季に岸辺の土中で蛹化する。成虫は灯火にも飛来し、一年中見られる。

絶滅に至った経緯とその要因

平野部に偏った分布であり、宅地開発などの都市開発による水域の消失、1960年代の強力な農薬の大量使用、圃場整備、水田農法の変化、

水質汚染、街灯の設置が絶滅要因と考えられる。とくに農薬に対する感受性が非常に高かった可能性がある。

特記事項

南方系の種で、関東以西のおもに太平洋側に分布していたが、1970年代以降の明確な記録が全く無い。1990年代以降の採集記録は確認を要する。生態の解明が不十分のまま絶滅したが、急速に絶滅した原因の解明は保全生態学上重要である。農薬に対する感受性が高かった可能性やメタ個体群構造の崩壊の可能性もある。

参考文献

- 苅部治紀・北野忠, 2011. 絶滅?まだいる?幻の日本産水生昆虫. 水生昆虫大百科 特別展 およげ!ゲンゴロウくん~水辺に生きる虫たち~展示解説書, pp. 104-108. 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- 森正人・北山昭, 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版, 東京. p. 142.
- 森岡優, 1953. スジゲンゴロウとコガタノゲンゴロウの幼虫の小観察. 新昆虫, 6(12): 9-11.
- Satô, M., 1961. *Hydaticus vittatus* (Fabricius) and its allied species. Trans. Shikoku ent. Soc., 7: 54-64.
- 須田孫七, 2011. むかし昔の井の頭池・住人は源五郎 東京の水生昆虫回顧録. 水生昆虫大百科 特別展 およげ!ゲンゴロウくん~水辺に生きる虫たち~展示解説書, pp. 84-88. 神奈川県立生命の星・地球博物館.

執筆者：西原昇吾（東京大学大学院農学生命科学研究科）・丸山宗利（九州大学総合研究博物館）